



## &gt;&gt;&gt; 自分時間

ANOTHER ACTIVITY — もつ二つの活動から広がる世界 &lt;&lt;&lt; 第3回

働きながら国際協力に携わって  
得られたこと

## 「私自身」の一番価値ある使い方

## 副業で国際協力？

「サラリーマンなのにNPOの代表って、どういうこと？」「どうやってたらサラリーマンが、アフリカに学校を建てられるの？」。少しでも興味を持った方は、ぜひ最後までお読みいただければ幸いです。

私は、本業は民間企業に勤めつつ、副業で国際協力のNPO法人の経営を行っています。サラリーマン兼NPO法人コンフロントワールドの代表理事です。アフリカに石鹸工場や学校を建設しています。

朝起きて会社に行き、家に帰ってご飯を食べて、お風呂に入って、寝る。休日は友達とごはんに行き近況を話し、家に帰って動画サイトを見て楽しむ。そんな普通の生活に「国際協力」をプラスしています。そんな私が、働きながら国際協力に携わる中で、得られたことを、本音でご紹介します。

やる人がいなかったから  
代表理事になった

まず初めに、私は他のNPO法人の代表のように、ビジョナリーな世界観を掲げて、仲間を集めてNPO法人を設立したわけではありません。手伝っていた団体が法人化し、他にやる人がいなかったから代表になったという経緯があります。

私は学生時代、海外ボランティアに没頭していました。卒業後は、国際協力を仕事にできる就職先が見つからなかったことや、自分の人生をかけてまではやれないと考え、他の学生と同じように就職活動を行い、民間企業に就職しました。

ですが、民間企業で働くうちに、「やっぱ国際協力に関わりたい！」と思っていたところ、当時まだ立ち上がったかどうか分からないくらいにコンフロントワールドと出会い、プロボノ（仕事で身につけた知識や経験を活



NPO 法人コンフロントワールド  
代表理事  
荒井 昭則

。 [あらい・あきのり] 1994年、東京都調布市出身。東京工業大学工学部卒業後、大手人材企業に勤めながらNPO法人コンフロントワールド (<https://confrontworld.org/>) を設立。代表理事就任。ワールド・ビジョン・ジャパン主催『未来ドラフト』グランプリ受賞。

かしたボランティア活動）として関わることになりました。

皆さんは本業とは別に、NPOや社団法人などのお手伝いをしたことはありますか。無い方は、友人の会社を自分の空き時間に手伝う感じをイメージしていただければと思います。私もそんな状態でした。

当初は軽い気持ちで、「ちよつと手伝おう」というスタンスでしたが、活動を続けるうちに、ミーティングの進行や、コミュニケーションツールの導入など、自分の役割が増えてきて、団体が渡航するタイミングでは、会社に有給休暇を申請し、メンバーと共にアフリカへ渡航するまでになりました。

そして2018年の春、法人化を決意し、任意団体から、NPO法人コンフロントワールドとなりました。当時私は副代表で、代表は他のメンバーでした。しかし、NPO法人を設立してすぐ代表が体調不良で離れることが決まり、私が代表になりました。正直な



## >>> ANOTHER ACTIVITY—もう一つの活動から広がる世界



写真左から、ウガンダ共和国ブタンバラ県の県長、筆者、現地パートナー NGOの担当者

ところ、予想外のことで荷が重いなど思いました。けれども、他にやる人がいなかったため、私が代表理事になりました。

### なぜ、NPO法人を立ち上げたか

任意団体からNPO法人を設立した理由は二つあります。

一つ目は海外で法人登録をしようと考えていたため、日本の法人格があったほうがスムーズに進められると感じたからです。

二つ目は、寄付をいただく機会が増えたためです。多額ではありませんが、私たちのビジョンや活動内容に共感する人が、ありがたいことに何名かいらつしゃったので、寄付をいただく団体の責任として、法人化することを決意しました。

では、NPO法人はどうやって作るのか？仲間を集めて、書類を提出するだけです。

空いている時間を見つけ、書類を作るのは大変な部分もありましたが、時間さえかければ誰でも書類は作成でき、仲間さえ集めればNPO法人は作れてしまうのです。

### NPO法人コンフロントワールドとは？

ここで団体の紹介をさせていただきます。

「NPO法人コンフロントワールド」は、主に二つの事業を行っています。一つ目が海外支援事業。アフリカのウガンダではトイレや貯水タンク、浄水フィルター、石鹸工場の建設、タンザニアでは学校の建設、またウガンダの別の地域では南スーダンから移動してきた難民を支援しています。

二つ目は物販事業です。ウガンダの就労支援を行っている女性が作製した小物や家具、また南米ペルーの刑務所で作られたファッションブランドの販売を行っています。

これらの活動を通して、私たちは、「不条理の無い世界の実現」生活と権利が保障され、誰もが自分で未来を決められる社会の実現」を目指しています。

コンフロントワールドを本業とするメンバーは1人もいず、メンバー全員が副業や学生です。つまり自分の人生の中の二番手、三番手の活動、よく言えばライフワークとなっていています。活動は全て、現地のNGO等を通して行い、現地在住の日本人がいらない珍しい団体です。例えば、タンザニアでの学校建設は、現地の教育センターと共に

行っています。

### 国際協力のやりがいと手触り感

「コンフロントワールドで活動するやりがいって何？」と聞かれたら「手触り感」と答えます。自分たちが動けば、現地の人々を救うことが出来る。そんな「手触り感」があります。

例えば、現地の学校に1万2000リットルの貯水タンクを建設した際は、それを使って水を得る人を見ることが出来る。また学校の校舎を建てた際は、教育を届けられる子どもが増えるのを見ることが出来る。このような活動を自分事として、リアルに感じることが出来ます。これをごく普通の社会人と学生の手で達成するのです。

年代も考え方も違う仲間とともに、誰も予想出来ない活動を作り上げる感覚は、何事にも代えがたいです。例えば、ペルーの刑務所で作製されたファッションブランドと、石鹸工場を一緒に作っているNGOは、どちらも当時学生だったメンバーが自ら見つけてきて、契約までこぎつけ、団体で継続させている事業です。

### 「時間」と「気持ち」の切り替えが大変

「手触り感」によってとても充実した気分になれますが、一方で大変なこと、辛いこと、気を遣うことが多くあります。

まず一つ目は、自分の「時間」と「気持ち」を捻出することです。当たり前ですが本業の仕事をしている時間とは別に、コンフロントワールドの時間を捻出する必要があります。仕事を終えた後や空いている時間を何とか捻出し、作業をこなしています。捻出しなければいけないのは時間だけではありません。「気持ち」も捻出する必要があります。本業を全力でやりきった後に、気持ちを切り替えて、全く別の仕事をする必要があるのです。

例えば、平日の日中、お客様のことを考へたり、上司に見せるプレゼン資料を作ったりする一方、アフリカの人々とのコミュニケーションや、コロナ禍によるウガンダのロックダウンは活動に影響があるのかについて考えなければなりません。

そのイメージは、サッカーの選手をやりながらパン屋の店長をやるくらい、全く異なるジャンルのことをやらなければなりません。時間があっても「気持ち」が追いつかないことがあります。

### 人間不信になった時期も

二つ目に大変なことは、一つ目の「時間」と「気持ち」を、自分だけでなく、メンバーにも求めなければならぬことです。自分だけだったら何とかなるかもしれませんが、メンバーにも本業以外の「時間」を作ってもらい、国際協力にかける「気持ち」を

作ってもらう必要があります。

コンフロントワールドに関わるメンバーは皆それぞれに本業や学業があり、二番手、三番手の活動としてのコンフロントワールドなので、辞めても生活に支障がありません。本業だったら仕事をさぼったり、ルールを守らなければ大問題となりますが、コンフロントワールドでの活動においては、仕事をさぼっても、ルールを守らなくても、その人の生活にダメージが無いのです。

以前、こんなことがありました。団体外部の人にも影響を与えるプロジェクトで、1人のメンバーが期日を守らなかったため、仕方なく私が寝る時間を削ってプロジェクトを完了させたことがありました。私がそのメンバーの代わりにプロジェクトの仕事をしている中、そのメンバーは友達とごはんに行ったり、どこかへ出かけたりしている写真をSNSに投稿していました。私が大変な思いをしている中、友達とピースしながら笑っている写真をSNSに投稿していたのです。「いや、俺はお前のせいで、貴重なプライベートの時間を削られているんだよ」と怒りに任せて指摘したこともあります。実はそのメンバーは本業では真面目で、きっちりとした仕事ができる人です。自分が与えられた仕事をやりきる、無理なら無理と早めに言う。ただ、その当たり前が、本業の場では出来ても、コンフロントワールドの場では出来なかつたのです。

これはメンバーが悪い、ということでは

なく、代表理事による私の責任で、うまく巻き込めていなかったのが要因です。コミュニケーションがうまくいかず、人間不信になるくらい、メンバーのことを信頼できない時期もありました。ですが、未熟であった私も少しずつですが、団体の代表理事として、メンバーのおかげで成長しています。

### コンフロントワールドによって夢が出来た

コンフロントワールドによって私の人生は大きく変わりました。きっかけは何であれ、代表という立場で試行錯誤しながら、仲間と共に活動を続ける中、一つの夢が出来ました。私の夢がどんなものかは最後にご紹介するとして、そこに至るまでに、コンフロントワールドの活動が私の仕事やキャリアにどう影響を与えたのかをご紹介します。働きながら国際協力や他の社会貢献活動を始めたい人にとってヒントになると思いますので、お伝えさせていただきます。

働きながら国際協力をするには、実は本業にとつてもメリットがあり、また二つの武器を持つことによつて、唯一無二の存在になれるのです。本業にとつてもメリットがあるというのは、自分の視野や経験の幅を広げられるということです。

私は本業では一人の社員ですが、コンフロントワールドでは代表理事です。一番下の立場と一番上の立場、つまり対極の立場でそれぞれを見えています。本業の上司が自分



## >>> ANOTHER ACTIVITY—もう一つの活動から広がる世界



現地で建設したソーブステーション  
(石鹸工房) で作製した液体石鹸

に指摘したことを、もし自分が、コンフロントワールドのメンバーに指摘するとすると、どういう言葉で、どんな気持ちで指摘することになるのか想像出来ません。様々な角度で、上司と部下など様々な立場から物事を捉えることが出来ます。自然と視野が広がってきます。

また、本業で吸収した考え方やスキルは、コンフロントワールドで実践して練習することも出来ます。例えば、私は本業で採用制度や評価制度、お金の承認フローなどの組織作りや事業の拡大の仕方・継続の仕方を吸収し、それをコンフロントワールドの活動で実践しています。

コンフロントワールドは設立からわずか3年にして、アフリカでトイレや貯水タンク、学校の建設を行いました。私が本業で得たスキルと経験を還元出来たからこそ、このスピード感で事業を成し遂げられたと言っても過言ではありません。

逆に、本業で何かに取り組む時も、コンフロントワールドで一度実践していると、つまづくポイントも事前に

予測出来ますし、本業以外の場で一度実践しているからこそ、質の高い仕事が出来ると考えています。

### 唯一無二の存在になれる

働きながら国際協力をするので、つまり本業と本業以外の活動をすることで、視野や活動の幅を広げられます。そうなる、いつしか自分自身が唯一無二の存在になっていることに気がきます。

サッカーの本田圭佑選手は、選手をやりながら監督も行っています。野球の大谷翔平選手は、投手としてマウンドに立ちながら打者としても活躍しています。そんな二刀流のスタイルは唯一無二であり、また新しい時代を切り拓いていく存在だと思います。

会社員をやりながら、アフリカに石鹸工場や学校建設を行っている人は、日本全体を見渡してみても、私以外には誰もいないのではないのでしょうか？ 唯一無二の存在になることにつながるの、働きながら国際協力をするのだと私は考えています。そして私は唯一無二の存在になったからこそ、国際協力の新しい時代を切り拓いていきたいと考えています。

### NPPO業界を引っ張るビジネスパーソンとなり、業界を変える

最後に、私がこれからやっていきたいこと、私の夢を紹介いたします。

私の夢は「NPPO業界を引っ張るビジネスパーソンとなり、日本の国際協力業界を変える」ことです。日本には国際協力を行うNPPOが多く存在しますが、代表が高齢となり継承が進んでいないNPPO、助成金を受け取ることが出来なくなり活動が止まるNPPO、ITツールを使いこなせずアナログな運営を行っているNPPOなど、課題は山積みです。

これらを含め、民間企業で働く私の目から見ると、NPPOの経営には「もったいない！」と思う瞬間が多くあります。民間企業とNPPO法人どちらも経験しているからこそ見えている景色があります。その能力を、他のNPPOが抱える課題解決に生かせないか。二刀流の私だからこそ出来ること、むしろ私にしか出来ないことがあるのではないか、そう思うようになりました。

世界にはまだまだ解決出来る問題、救える命がたくさんあります。「私の人生を使って、次の世代に何を残していくか」。そう考えた時に、私自身の一番価値のある使い方は、NPPO業界を引っ張り、国際協力業界を変革していくことではないか、そんな使命感を感じています。

本業でもコンフロントワールドでも様々な経験を積み、自己を成長させ、「NPPO業界を引っ張るビジネスパーソンとなり、日本の国際協力業界を変える」という夢に向かって進んでいければと思っています。少しでも興味を持たれた方はコンフロントワールドのホームページをご覧ください幸いです。